

奈良奉行所(別名南都奉行所)(奈良市北魚屋西町)(奈良女子大学)

南都(奈良)奉行所は、現在の奈良女子大学の敷地となっている地にあった。奉行所は、方形で周囲に堀が廻らされ、大学正門の位置に奉行所正門があった。また、資料に拠れば、女子大学の敷地西側には、中世には中坊氏館・北小路氏館があったとか。

歴史

南都(奈良)奉行所は慶長8年に大久保長安が奈良派遣奉行衆統轄の職にあった時に築かれた。慶長18年に中坊秀政が『南都奉行』に任命され、興福寺・東大寺等の大寺院の監視と奈良町支配が職務であった。

江戸中期には大岡越前守忠相の父忠高も南都奉行を務め、幕末には後に勘定奉行になった川路聖謨も南都奉行を務めている。

お城の旅日記へによる



町記録にみる
奈良奉行